

2006年4月6日

北海道知事
高橋はるみ 様

(社) 北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙



オホーツク海沿岸における海鳥大量死に関する

原因究明と対策についての要請書

本年2月下旬以降、斜里町などオホーツク海沿岸で海鳥の大量死が確認され、9年前のナホトカ号事故を大きく上回る、総計約5,338羽（3月30日付け朝日新聞）の死体が回収されました。この大量死は、実際には、上記の何倍もの被害数が推定され、日本最大規模ではないかと言われております。

北海道オホーツク海沿岸地域は、漁業を基幹産業とする地域だけではなく、海と陸の連携が高く評価された世界自然遺産の知床半島に該当します。これらに対して、サハリン油田から発する種々の影響が危惧されており、昨年11月に生じた中国吉林省の石油化学工場の爆発に起因する有毒化学物質がその後3ヶ月でアムール川を経て北海道沿岸に達するという想定（2月21日付け北海道新聞）もまた、危惧されている現状です。

今回の海鳥大量死に関して、関係各機関は原因究明に努力されてきたと思いますが、3月24日付けの北海道新聞では、海鳥に付着した油は、大型船に広く使用されているC重油であり、その流出源と流出時期の特定が困難になったと報じられております。

私たちは、北海道の自然を守るため、それはまた漁業という基幹産業を守ることにありますが、原因不明という現状を座視することはできませんので、ここに、次の2点について要請いたします。

1. 海鳥大量死の原因究明を求めます。

今回の大量死の原因は、油汚染によると思われるのですが、現状では、発表されたC重油原因説にも疑問が残り、アムール川を経た有毒化学物質の汚染事故の影響も推測され、私たち北海道民を納得させる段階には達しておりません。これらを含めて、早急に、科学的な原因と北海道に至った経路の究明を貴職に求めます。そこでは、とくにロシア連邦共和国との国際協力による究明が必要と考えます。何よりも原因究明がなければ、有効な対策を講じることができないと考えております。

2. 油汚染事故対策検討会の開催と、海鳥・海獣の救護システムの確立を求めます。

現在、北海道における海鳥の油汚染救護システムはまったく不十分であると言えます。今回の海鳥被害が死体ではなく生体の油汚染となり、生体の保護が求められたと想定するならば、その後の対処は大変な事態に陥っていただろうと推察しております。すなわち、サハリン沖の油田開発が進み、オホーツク海におけるタンカーの往来が頻繁になりつつある今、漁業だけではなく北海道の大切な海鳥・海獣に対する油汚染事故が大いに懸念されております。貴職に対して、早急に、関係各機関による油汚染事故対策検討会の開催と、海鳥・海獣の救護システムの確立をここに求める次第です。